

美人画研究会 活動報告

第23回 2020年7月12日<森下会場>

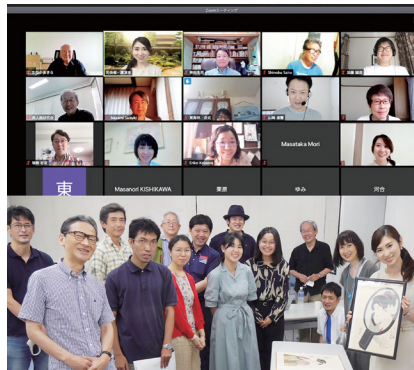
①2019年の美人画6人展より、3人ずつ自分の画材を紹介するパート1で、水性油絵具デュオを河合直樹さん、パステルを城戸崎雅崇さん、色鉛筆を井手晴海さんが夫々紹介してくれました。デュオは薄塗りも厚塗りもできる新しい画材です。立体的にリアリティを表現する技法を教わり、油絵と遜色ない作品に皆驚きました。パステルはソフトパステル、ハードパステル、パンパステルなどがあり、実際に画用紙に描いて違いを確認できました。色鉛筆はさまざまな技法や色の調合方法などを見聞し、新発見の連続でした。



②2月に着物の畑江さんを撮影し、美人画に仕上げる企画。まず畑江さんは、ポーズの参考にした美人画をスライドで紹介してくれました。その後、参加の皆さんの「着物の女性」の絵を見せあい、描く際に意識したことや着物の特徴等を話し合いました。

第24回 2020年9月5日<会場とZoom>

原島博先生のご協力の下、五反田の会場とZoom会議の同時進行という新しい形式で行われました。



①江戸から現代までの女性表現に着目して、「浮世絵美人から林静一へ」の発表を畑江麻里さんが行いました。豊国や暁斎が

裸体や骨格を意識していたこと、夢二の大きな手足が感情を語る要素であったことなど、興味深い内容でした。

②画像処理技術専門の栗原雄一さんが、その限界と未来を見据えて「人工知能が美人画を描く日は来るのか」を発表されました。画風変換アルゴリズムを学習させれば好きな画家風の絵は作れますが、自発的に生み出すことは難しそうです。

③私、松永伸子がモーフィングソフトで作成した「鳥毛立女から令和の美人画までの変遷」を発表しました。各時代の文化と画風を紹介し、美人画95枚のモーフィング（約4分）をお見せしました。

第25回 2020年11月15日<森下会場>

①画材紹介のパート2で、水彩紙を松永伸子が、手描き→CG→油彩を斎藤忍さんが、水彩とアクリルを東観崎線さんが紹介しました。水彩紙は自分に適したものを選ぶ必要性を感じ、斎藤さんのハイブリット技法はネット印刷を利用する時間短縮効果に驚嘆。東観崎さんの2種の絵の具を混ぜてグレートーンのグリザイユを描き、それに着色する実演は拍手喝采でした。



②「美人画と多様性～それぞれの美の発見」というタイトルで、有色女性を美人画に描いた作品を持ち寄り、選んだモデルを紹介し、話し合いました。黒人女性独特の美しさは、肌の輝きと手足の長さ、原色や白色が似合うこと等で、実在女性の生き方に感動して描いた絵、力強さや特徴を表現した絵など多様な絵が集まり、活発な意見交換ができました。

※詳細は「美人画研究会HP」をご覧ください。(松永 伸子)

<オンライン開催> 顔学会25周年記念シンポジウムのご案内

◆日 時：2021年3月6日（土）13：30～17：45

◆参加費：無料

顔学会創立の1995年3月7日から、25年が経ちました。延期となっておりましたが、オンライン形式とし、満を持して右記で開催します。

25周年を祝い、「顔を知り・楽しみ・遊ぶ」、顔学の原点に立ち戻り、そして未来を拓く場です。ぜひご参加ください。

25周年記念シンポジウム実行委員会
実行委員長：原島 博
副実行委員長：高野 ルリ子

●プログラム概要

13：30～	基調講演「学会25年の歩み」会長：菅沼 薫
14：00～	特別講演<顔を知る> ①「動物の顔・ヒトの顔」馬場 悠男 ②「特殊メイクで造る顔」江川 悦子
15：10～	デモ・インタラクティブセッションの紹介&実行委員会企画
15：40～	デモ・インタラクティブセッション<顔を楽しむ・顔で遊ぶ> 似顔絵作家・若手交流会・化粧文化研究者ネットワーク・美人画研究会による企画
17：10～	オンライン懇親会
17：45	終 了

編集委員



中洲 俊信



高野 ルリ子



城戸崎 雅崇



富澤 洋子



坂本 浩一



菅沼 薫(協力)



米澤 泉(協力)



松永 伸子(協力)

メンバー募集中!

J-FACE NEWS LETTER

日本顔学会ニューズレター 74 号

21 JANUARY 2021 Vol.74 <http://www.jface.jp>

Contents

P1～2. 第25回日本顔学会大会（フォーラム顔学2020）開催報告
P3. 顔学オンラインサロン報告 第6回～第12回／2020年度総会報告
P4. 美人画研究会活動報告／顔学会25周年記念シンポジウムのご案内

第25回日本顔学会大会（フォーラム顔学2020）開催報告



コロナ禍を鑑み、初のオンライン開催・参加費無料となったフォーラム顔学2020。10月3日（土）、4日（日）に、運営本部を神奈川県慶應義塾大学矢上キャンパスに置き、支部を北海道、大阪、石川とした体制で開催いたしました。参加登録は519名に上りました。オンラインツール統計で参加状況を見ると最大参加者数は377。リモートながら熱気あふれる大会となりました。



開会式

青木義満大会長による開会宣言、菅沼薫会長からの挨拶、実行委員長高野ルリ子からのメッセージ、渡邊伸行プログラム実行委員長からの諸注意とボタンをつなぎ、「参加者全員が主役！」のフォーラムがスタートしました。



挨拶をする青木義満大会長（左）と菅沼薫日本顔学会会長（中央）、高野ルリ子実行委員長（右）

口頭発表

口頭発表はZoom Webinar形式で行い、20件の発表がありました。第1日目には「顔の表現」、「顔の印象と魅力」、第2日目には「顔と工学」、「顔とコミュニケーション」の4つのセッションで、活発な研究発表が行われました。タイトルからキーワードを拾ってみると、彫刻家、似顔絵、3D-CG、シワ、平均顔、視線、深層生成モデル、顔色効果、表情操作など、これだけでも多様な発表があったことが伺えます。

ポスター発表

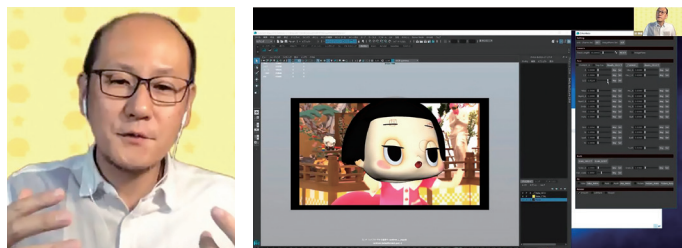
ポスター発表ではWebExを使い、一発表につき部屋を設けて行いました。発表は11件。チャットで質問をする、画面越しに紙に描いて質問に答えるケースもあり、オンラインならではのインタラクティブなやりとりで盛り上がりました。理事／理事補佐にお願いした“サポーター”の力も光りました。

■作品展示

2016年に始まった顔学会ならではのコンテンツ、今大会ではWebExを用いての開催でした。似顔絵、自画像、立体物など、技術とセンスに圧倒される7件の力作が披露されました。制作背景のやりとりや作品を見ての笑い声も響き、和やかな様子がうかがえました。

■特別講演

NHKの人気番組「チコちゃんに叱られる！」のCGプロデューサーを務める林伸彦氏にご講演をいただきました。顔学会のためにと制作の裏側を実例を交えて紹介してくださいました。65のパラメーターを操作しての表情づくり、発話と口元を連動させるリップシンキングなど技術の粋を感じるとともにチコちゃんへの愛情が伝わるお話でした。



林 伸彦さん CG制作のようす

■企業広告

4件の企業・団体様がスポンサーとなってくださいました。リアル展示が叶いませんでしたので、動画によるプレゼンテーションと広告紹介となりました。

■イブニングシンポジウム

Remo Conferenceというオンラインツールを使い行いました。パーティー会場のしつらえで、どのテーブルに誰がいるかがアイコンから推測できるので、それを目掛けて話に行く、というスタイルでした。顔を見て話し合うことの楽しさを実感した一時でした。

■原島賞・興水賞

原島賞は真摯な分析結果をポスターで発表した「眉の太さと景気との関係」志賀綾花さん、松下戦具さんに。興水賞は、企画シンポジウム「顔学のトレンドをさぐる」の発表者、中村航洋さん、松下戦具さん、瀬尾昌孝さんと企画者の渡邊伸行さんへ贈られました。



原島賞の志賀綾花さん、松下戦具さん

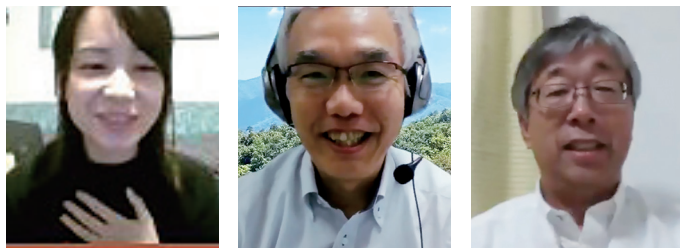


上から興水賞の中村航洋さん、松下戦具さん、瀬尾昌孝さん、渡邊伸行さん

■オーディエンス賞

今回の実行委員会でぜひやりたいと、15年振りに復活させました。オンラインアンケートを活用し、参加者に投票をしてもらいました。口頭発表は田口冴恵さんらによる「シワが対人印象にもたらす影響」、ポスター発表は北岡明佳さん「パンダはかわいいのはなぜか」、作品展示は橋本憲一郎さん「似顔絵タイムトンネル」が受賞しました。

閉会式で賞状を授与しコメントをいただきましたが、「賞状をもらうのはいつ以来か」と喜びの声が響きました。



口頭発表 田口冴恵さん
ポスター発表 北岡明佳さん
作品展示 橋本憲一郎さん

■閉会式

最後に青木大会長より、開催の御礼、研究の論文化への願いが述べられました。その日、運営本部に詰めていた面々でマスクをつけた笑顔でお礼を伝え、お開きとなりました。

■アンケート結果より抜粋

参加者へのアンケートを10/13-23に実施しました。182件の回答をいただきました。2日間の内容とオンラインでの開催方式については、やや満足～満足との回答がともにほぼ100%でした。オンラインツールもほとんどの方が使いこなせていたようで、ほっとしました。参加状況については口頭発表セッションへの参加が顕著でした。参加費の妥当額や自由記述でいただいた声も以降の開催に活かしてまいります。ご協力をありがとうございました。

■謝辞

オンライン開催という初めての形式でしたが、たくさんの方々に支えていただき、無事に実施することができました。ご発表や展示のみなさまには、リハーサルや紹介動画の作成など快く対応していただき、改めて感謝申し上げます。各拠点からご参加くださったみなさま、運営にご協力をくださった理事の先生方、それぞれにご準備を重ねていただき、本当にありがとうございました。アットホームな会だったという声も届き、実行委員会としては一入の思いです。リモートで離れてはいても、一つところに集い、一体となって作り上げた大会だったと実感しています。みなさまに心より御礼を申し上げます。(フォーラム顔学2020 実行委員長 高野 ルリ子)



運営本部の舞台裏



顔学オンラインサロン報告 第6回～第12回

「顔学オンラインサロン」は「リモート時代」に対応しZoomを活用して学会のさまざまな活動状況を会員及び一般の方々にも広く知っていただこうと、5月から第1、第3火曜日の夜に開催してきました。ここでは第6回から12回までを、要旨ですが学会ホームページからの抜粋で紹介します。

○第6回 2020年7月21日(火)

話 題：「人工知能を用いた顔研究の現在」
提供者：日本顔学会若手交流会代表・大阪工業大学 瀬尾 昌孝

近年、幅広い分野で人工知能が活用されています。人工知能が最も効果を発揮するとされる画像処理分野を中心に、人工知能を活用した顔研究の現状について紹介されました。

○第7回 8月4日(火)

話 題：「マスク時代の顔～コロナ禍の顔を考える～」
提供者：日本顔学会理事・資生堂 高野 ルリ子
日本顔学会元会長 原島 博

新型コロナウイルスの影響で、対面で顔の全体を見る機会には限られてきました。マスクした顔やオンラインでの顔はいわば「一時的」な顔。その顔はどんな印象を与え、また自己の顔に対する意識に影響を与えているのでしょうか。顔の一部を隠蔽することによる魅力評価への影響や、マスクと化粧に関する話題などが提供されました。

○第8回 8月18日(火)

話 題：「マスク時代の顔～コロナ禍のファッション・文化～」
提供者：甲南女子大学 米澤 泉
都留文科大学 山本 芳美

米澤先生から「ファッションマスクに見るウイズコロナのおしゃれ」というテーマで、マスクまでもがファッション化されてきた現状について紹介され、山本先生から「台湾のマスク事情『白は不吉で柄物上等』」というテーマでコロナ対応の成果を上げている台湾におけるマスク事情についての紹介がありました。(「化粧文化研究者ネットワーク」協力)

○第9回 9月1日(火)

話 題：「東西貴族美人模様
～將軍正室とファラオ孫娘の実例から～」
提供者：日本顔学会監事・国立科学博物館 馬場 悠男
馬場先生が実際に研究された遺骨、徳川9代將軍家重の

正室「証明院」は京都の貴族出身で浮世絵美人画のモデルになりそうな顔立ちをしている。古代エジプト王朝ラムセス2世の孫娘「イシスネフェルト」は有名なネフェルティティ像のような顔立ちをしている。しかし、顔の頑丈さは違う。何が違うのかというテーマで多面的な話題が提供されました。

○第10回 9月15日(火)

話 題：「フォーラム顔学2020の見所！聴きどころ！」
提供者：日本顔学会フォーラム顔学大会長・慶應義塾大学 青木 義満

10月3日～4日に初めてオンラインで開催される「フォーラム顔学2020」を間近に控えて、青木先生と実行委員の方々から、苦労話や見所などを紹介いただきました。

○第11回 10月20日(火)

話 題：「深層学習がもたらした顔学の研究イノベーション」
提供者：日本顔学会理事・早稲田大学 森島 繁生

顔学領域を含むコンピュータグラフィックス、コンピュータビジョンの研究分野で、数年前には想像できなかった大きな潮流変化が生じています。これまでこつこつと人物モデルの制作から始めていた手順が、今やDeep Fakeに代表される画像から直接人の顔を別人に入れ替えるといった手続きで、簡単に短時間に従来のリアルさを超えた合成クオリティを達成できるようになりました。こうした深層学習(ディープラーニング)を用いた研究の現状について紹介されました。

○第12回 11月3日(火)

話 題：「マンガの顔」
提供者：日本顔学会副会長・東北大学 阿部 恒之
東北大学 オーリガ・コビロウワ

阿部先生から「マンガの人物表現」というテーマで、「顔立ちマップ」でマンガの顔を分類したところ、日本のマンガとアメコミではヒロインの顔に明瞭な区別がみられること、また日本の少年マンガの主人公とライバルにも明瞭な特徴があり、これらの結果から日本における「子供顔偏重」ともいえるべき特徴が浮かんでくることが紹介されました。オーリガ先生からは「マンガの感情表現」というテーマで、漫画における感情表現の作法・文法を整理して示され、焦り表現の汗、怒り表現の血管など、現実の模写・誇張表現を超えて独立性の高い感情アイコンとして発達し、顔文字にも影響を与えている状況が紹介されました。(城戸崎 雅崇)

2020年度総会報告

初のオンライン開催となったフォーラム顔学2020初日の10月3日(土)に、2020年度日本顔学会総会が開催されました。

会長の菅沼さんの開会あいさつに続き、会計担当理事の金子さんから2019年度の決算報告が行われました。一般会計および特別会計(フォーラム顔学2019)の収支状況の説明の後、会計が適正に処理されている旨の会計監査報告が行われました。昨年度の決算報告は、オンライン開催ならではの「拍手ボタン」を参加の皆様にご押しいただくことで承認されました。

次に、菅沼さんから2020-2021年度の役員、評議員会、および今年度の学会誌編集委員会、ニューズレター編集委員の構成について報告が行われました。さらに、本年度の活動

報告として、開催中のフォーラム顔学2020の概況のほか、イブニングセミナー、学会誌、ニューズレターなどの活動報告に続き、学会公認サークルの若手交流会および美人画研究会の活動が紹介されました。

その後、菅沼さんから来年度開催の日本顔学会25周年記念シンポジウムおよびフォーラム顔学2021(立命館大学・大阪いばらきキャンパスにて開催予定)を含む、学会活性化を目指した2021年度の活動計画が提案され、最後に金子さんより例年と同様の収入・支出の想定のもとに、2021年度の一般会計予算案が提示されました。これらの提案は、多数の拍手アイコンにより承認され、今年度の日本顔学会総会は予定された議事を滞りなく終了して閉会となりました。(総務担当理事 今井 健雄)